

創立30周年の歩みに思いをはせ祝賀会開催 遊佐町畜産組合

遊佐町畜産組合の創立30周年記念祝賀会が11月1日、ガーデンパレスみずほで開かれ、歴代の組合長や組合員、当JAや関係団体職員ら約50人が参加し、盛大に開催されました。

同組合は旧遊佐町農協養豚部会が前身で、昭和63年に農協外部組織として設立。平成28年度と同組合養豚農家は遊佐町と酒田市合わせて12人で、出荷頭数は1万1513頭です。

同組合の長澤良樹組合長はあいさつで「これまでの支援に感謝申し上げます。ここまで先導してくれた先輩方や、共に歩んできた友のためにこれからも一生懸命続けていきたい」と話し、平田牧場グループ新田嘉一会長が祝辞を述べました。



▲あいさつを述べる遊佐町畜産組合の長澤会長

奥山次雄理事が酒田市農業賞を受賞 地域農業の振興に貢献



▲丸山市長から表彰状を受け取る奥山理事

農業振興に積極的に取り組み、農業経営の指針として模範となる活躍をしたとして、浜中地区の当JA奥山次雄理事が今年度の酒田市農業賞を受賞し、11月9日ベルナル酒田で丸山至酒田市長から表彰状と農業章、楯を受け取りました。

奥山理事は浜中野菜出荷組合において、長年にわたり中心的な役割を果たし、メロンの生産販売の拡大に貢献し、農業青年の育成にも尽力。平成13年から当JA理事を務め、平成25年浜中水害では地域と県、JAの調整役を担い迅速な水害対策実施に奔走したことが評価されました。

奥山理事は「誰よりも早く一歩踏み出すことを今後も心掛け、農業に取り組んでいきたい」と抱負を語っていました。

啓翁桜の出荷調整講習会開催 花き部会花木専門部

啓翁桜の出荷を前に、産地として高品質で統一した啓翁桜を出荷しようと、花き部会花木専門部は11月24日、出荷調整講習会を開きました。

講習会には、生産者や県酒田農業技術普及課、JA職員など約25人が参加。高橋正幸同専門部長が園地で枝を切るときポイントとして、「若い枝は切らないで来年に残し、枝全体に花芽が付いているものを見極めて切ることが大切」と話し、「枝を結束するときは束を鉛筆の先のような形にすること」などを説明。参加者たちは出荷調整のポイントを一つひとつ確認していました。今年度、同専門部では17人が約25haで栽培し、4月上旬までに23万本の出荷を見込んでいます。



▲枝を切る際のポイントを説明する高橋専門部長